

# 三笠霊苑 新春元旦祭 御案内

## 新年を迎えて

平成二十五年の新年を無事迎えることができ、偏に皆様様の温かいご支援と御協力の賜物と職員一同心より厚く御礼申し上げます。

本年度で開苑四十九周年を迎える三笠霊苑が、半世紀近く、皆様の大切な御先祖様をお祀りする心の拠り所として在り続けられるのも、皆様方の御信仰心、御先祖様の御加護が有ればこそと感謝申し上げます。

『先祖崇拝・日々に報恩感謝』の理念を胸に、永代に渡り皆様の御先祖様をお祀りし続ける霊苑でありたいという願いを込めて、職員一同取り組んで参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 日時

平成二十五年一月二日(元日)  
午前0時より

### 場所

三笠霊苑本堂於



## 第一部 元旦祭

新たな年を迎え、社会の平和と三笠霊苑各家御先祖様のご供養とご家族の幸福を祈って法要をつとめます。

法要の後に、霊苑住職の法話があります。是非ご家族お揃いでご参拝下さい。

## 第二部 月例祭

月例祭は、毎月一日に当月の祥月命日にあたる御仏(神)様をご一緒にご供養いたします。

一月度は元旦祭に引き続いて執り行います。

### ○灯明供養

大みそかの除夜の鐘と共に参道の両側に並ぶ灯籠に灯りが点火されます。

### ○霊苑入口の本堂

前で、温かいお飲み物のご用意も致しております。



## 『祖先崇拝』

### 日々に報恩感謝

へビは古来より、世界的に信仰の対象でありました。各地の原始信仰では、へビは大地母神の象徴として多く結びつけられていました。

山野に棲み、ネズミなどの害獣を獲物とし、また脱皮を繰り返すへビは、豊穣と多産と永遠の生命力の象徴ともされてきました。

また古代から中世にかけては、尾をくわえたへビ(ウロボロス)が各地の出土品に見ることができ、「終わりがない」ことの概念を象徴的に表す凶象としても用いられていたようです。

日本においても、豊穣神として、雨や雷を呼ぶ天候神として、また光を照り返す鱗身や閉じることのない目が鏡を連想させることからへビは、太陽信仰における原始的な信仰対象ともなっていました。

三笠霊苑は昭和四十年の巳年に開苑致しましたので、今年で干支が四周したことになります。

へビを使ったことわざに「蛇の道は蛇」というものがあります。意味は、専門のことはその専門家が詳しいということです。(類似句としては「餅は餅屋」)

『祖先崇拝 日々に報恩感謝』を教義として、先祖祭祀の大切さを皆様にお伝えする我々職員も、より一層精進し、霊苑で御先祖様をお祀り頂いております皆様のお家が永く続く、終わりの無いように御先祖様をお祀りするお手伝いが出るように務めてまいります。

年始の御挨拶を先ず御先祖様にして頂きたく元旦の午前零時より除夜の鐘が鳴る中『元旦祭』を執り行っております。ご家族、ご親戚の皆様お誘いあわせの上是非ご参列くださいますようお願い申し上げます。



## 三笠霊苑

### 苑主 西本隆一



新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え思い返すと、子供の頃のように無邪気に喜べる年齢でも無くなってきたとは言え、やはりお正月は、思いの深まる旬だと感じています。

お正月と云えば、昔の子供なら普段は起きていてはいけない時分まで夜更かしも許され、特別なお料理が並び、沢山の親戚が集まり、普段会わない仲の良いいとこ達と一緒にお年玉を貰って遊ぶ、本当に夢の様な数日間。

その前には障子をビリビリ、お餅つきに、しめ縄の取替えと、けっこう楽しい年越しを迎えるお手伝いも少しづつ割り振られて、なんだか大人の世界へ参加させて貰えるような気分が、なんだか少し誇らしく、ただ楽しいだけでは無かったような気がします。

年を経て毎年繰り返すうちに楽しさも程々になり、かといって手間暇がただ慌ただしくバタバタとする大人の事情も随分と慣れ、今では自分の子供や甥姪を喜ばす事が愉しみになって来たのは世間様と同様です。霊苑でもお子様にお菓子を配る機会がございますが、その折に気がつくのは、ああ、子供は可愛いものだなあ。少し多めのお菓子を貰えるだけであの笑顔。

そして更に、そのお子様の笑顔を見ただけで喜んでおられる親御さんの輝く笑顔。

その度に、お正月の子供の身に、楽しかったこと。誇らしかったこと。その全てを親の立場で喜んで下さったのだなと思いとすると、事々に、あたらしく感激するばかりの昨今です。

あの心を掛けて下さった方々。実の親ばかりでなく知人友人を含めた多くの人は、今はこの世に居られなくなりました。100の内100、存在の無い方々です。なのに、なぜこの身の内には、こんなにも身近に感じられているものか。

この思いが残るうちは、きっとあの方々は身は亡くならうと無くなつてはいないのだと思ひ返してあります。

霊苑というところは、今は亡き人への想いと、今を生きる我々。明日を担ってくれる子供たちが交わる、世間に数少ない場所です。

その大事な場所。皆様の思いが形に現した姿と心を定めて、これからも務めて参りたいと思っております。今日本の国は、もう数世代にも続く社会的な混乱に苦しんでいる様に世相を拝見しております。

若い世代では、「正規」とか「正」の資格でキャリアを積む事が出来ない若者が増えているとも聞いております。

日本の社会では心は自由に、でも身の回りは厳密に廻りに合わせて行く習いがあり、社会的なキャリアを積まないものは受け容れられにくい条件の一つと感じております。

しかし外国からお越しの人と接すると、その例えばバイトの売り子一人と言え、他の国々とは決定的に違っているとお聞きすることが少なくありません。

もしそれが本当なら、きっとそれらの若者たちが子供の頃、親から社会から期待を掛けられ励まされ、君たちはまだ磨かれてはいないけど立派な珠なんだとその成長を笑顔で迎えられるからに違いないでしょう。

そんな大事な、若い世代です。今は苦しく元気を失くした姿かもしれません。

それを見守る我々にも、あの思いで見送ってくれた人たちが霊苑には祀られております。せいぜい若い世代にも務めと役割を残してやりたいなと思う身より新春のご挨拶をさせていただきたいと思っております。

霊苑入り口では、池の廻りに早くもフキノトウの芽が大きく育っております。

先代苑主、先代会長のそれぞれの想いと役割を受け継ぎ、皆様への御用を預かったこの聖地です。いつもながらではございますが、心ばかりの準備をして皆様のご参拝のお世話取りをおまちしております。

## 三笠霊苑

### 住職 三谷弘範



新たな年が始まりました。

今あなたは、今日という日をどのような思いで迎えられるのでしょうか。

昨年のことを振り返りながら新しい年を迎えられた喜び。

全国の各寺院では元旦法要あるいは、元日から三日〜七日間行われる修正会があります。各寺院に於いて行われる法要で、お正月の中心行事であります。

その起りには中国に見られますが、わが国では護国思想の高まった奈良・平安時代に、悔過の行法や「大般若経」の六百巻の転読法要も行われたことが有ります。「悔過」とは、仏を礼拝して罪過を懺悔することにより、「天下泰平」「風雨順時」「五穀成熟」「万民快樂」等を祈願いたします。

「悔過」とは、大乘仏教でいう「懺悔」の意味の「過去を悔いる」ことで、過去の罪行を仏前において悔いることによつて衆罪が消滅する仏教の考え方に、神道の身を清める禊の思想が習合されたものであります。

「昔は良かった」とか、過去のことを美化して過去の栄光にすがりがちになることがあります。

今日とは、仏教の時間で表すとき、過去・現在・未来とつながっているわけです。

過去(昨日)があつて、今(今日)がある。今(今日)があつて未来(明日)があるので、「如何なる昨日より、今日が尊い」のです。

あの時こうしておけば良かったと思うのも今なので。過去を反省し、今年(未来)はどうするのか?一年の計は元旦にあり。新たな年を迎えたことを感謝し、今年(未来)の目標を達成すべく誓いをたてる意味は、その場だけの願掛けではなく一年を通じて願うこと。自分はどうありたいと「心願に生きる」ことが目標へ近づき第一歩であります。

# お墓参りと初詣

## ○初詣

お正月には神社仏閣にお参りし、手を合わせてその歳の所願成就を祈られる方も多い事と思えます。神社仏閣に参拝し、お守りや破魔矢などを授かって、おみくじを引いたり、絵馬に願い事を書いて奉納したりなどされる事でしょう。

また昨年のお守りや破魔矢などを社寺に納めて、お焚き上げして頂かれる方を映したお正月風景をよく拝見いたします。

三笠霊苑に於きましては、大晦日の夜八時より皆様がこの一年お祀り下さいました、経木や卒塔婆などをお焚き上げさせて頂いております。

また、歳が改まりました、午前零時より元旦祭を引き続きまして一月の月例祭を本堂に於きまして執り行わせて頂いております。

元々は年籠りと言って、大晦日の夜から元旦の朝にかけて氏神様（祖霊・御先祖様）のお社に家長が籠り、行く年一年間の無事を感謝し、新しい一年の無事を願って歳神（お正月様）をお迎えする魂祭（たままつり）の習慣が有りました。

やがて大晦日の夜の除夜詣と、元日の朝の元日詣になり元日詣が今日の初詣に成ったと思われまます。

江戸時代末期までは氏神様やその歳の恵方（歳神様が来られる方向）の神社仏閣に詣でる、恵方詣りでしたが今日では、氏神様や恵方とは関係なく有名な社寺に詣でられる事が多いようです。

初詣に詣でるのは、神社や寺院どちらでも構わないとされています。これは明治時代に神仏分離が行われる以前は、神道と仏教ならびに祖霊信仰が一体化した神仏習合の信仰が、ふつうに行われていたからだと思われまます。

## ○お正月のお墓参り

お墓参りと言うと、お彼岸やお盆を思い浮かべられる方がおられる事でしょう。

お墓参りは年末に済ませて、お正月は神社仏閣にお詣りするという方もおられます。

神社仏閣にお詣りしてから、お墓参りという方もおられる事でしょう。

しかし、先の項でも述べましたがお正月は祖霊を家にお迎えする魂祭の行事でした。

新たな年を迎え私達の最も身近な御先祖様から、私達に続く命の本源に思いを馳せ、目の前にあるお墓こそ御先祖様が汗と涙と共に一生懸命生きられた証であり、お墓に向かつて手を合わせ私達が今生きている事を感謝する。お正月のお墓参りは、自分の命を思い起こすよい機会なのでしょう。

お正月、霊苑には沢山の方がお参りにお越しください。墓前で御先祖様に様々な感謝や報告をされておられる事だと思えます。

神社仏閣にお詣りした後、なにか清々しい気分になるものです。目を閉じ手を合わせてお祈りするといふ一瞬の行為が、自分と言ふ一人間の力を超えた、「なにか」に対しこだわりを捨てて人間本来の素直な心になれるから、清々しい気分になるのでしょう。裏を返せば、私たちはこの清々しい一瞬に素直な心になるために、神社仏閣にお詣りしているのかもしれない。

お墓にお参りする時私達は、清々しい気分になります。何か別の気分「ほっとする」・「あったかい」を感じる事が有ります。自分の一番身近な御先祖様と接しているからなのかもしれません。

お正月、お墓にお花・お線香・御燈明を供えて、手を合わせてお参りされましたら「清々しい」・「ほっとする」・「あったかい」気持ちに成られる事でしょう。

# 年 回 表

平成二十五年（癸巳）  
みずのとみ

一周忌	平成二十四年亡
三回忌	平成二十三年亡
七回忌	平成十九年亡
十三回忌	平成十三年亡
十七回忌	平成九年亡
二十三回忌	平成三年亡
二十五回忌	平成一年亡
二十七回忌	昭和六十二年亡
三十三回忌	昭和五十六年亡
三十七回忌	昭和五十二年亡
四十三回忌	昭和四十六年亡
四十七回忌	昭和四十二年亡
五十回忌	昭和三十九年亡
七十回忌	昭和十九年亡
百回忌	大正三年亡
百五十回忌	元治一年亡
二百回忌	文化十一年亡

## 月例祭（朔日参） ついたちまいり

毎月一日  
午前11時〜12時  
但、元旦祭は  
午前0時より

三笠霊苑本堂

## 家運隆昌は

陰徳積みの  
霊苑清掃から

毎月第2日曜  
午前10時〜12時

三笠霊苑積善会

# 平成二十五年度 霊苑の年間行事

<b>一月</b>	一日 元旦祭・月例祭 積善会	(午前〇時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>二月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>三月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>四月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>五月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>六月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>七月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
<b>八月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
	十三日、十五日 お盆 ※2	(午後四時)	千体地藏前

<b>九月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
	十三日 彼岸大法要 ※3	(午前十時・午後二時)	

<b>十月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
-----------	---------------	-----------------	--------------

<b>十一月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
------------	---------------	-----------------	--------------

<b>十二月</b>	一日 月例祭 積善会	(午前十一時 午前十時)	本堂 参道・合祀段
------------	---------------	-----------------	--------------

※1、3 日程に関しては変更になる場合があります。直前の会報誌で再度ご確認頂きますようお願い致します。

## 積善会へのお誘い

新しい年を迎え奉賛会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は去年にまして寒い日が続いていますが、皆様におかれましては、くれぐれもお体大切になさいます様お願い致します。

霊苑では、毎月第二日曜日午前十時より、お墓の通路や参道をお掃除して陰徳を積む会、積善会を開催させて頂いております。

(陰徳とは、人に見られる見られない、知られる知られないに関わらず積まれる徳「布施」とも言われます)

お墓にお参りされて、手を合わせてほっとした気

持ちなられた後、毎月ご参加いただいている皆様と楽しい会話や会食でお時間をお過ごしいただければと存じます。

昨年も新しい方にご参加頂きました。皆様も一度ご参加下さいませんか、毎回でなくてもお時間の許すかぎりご参加頂ければと存じます。

積善会にご参加ご希望のお方は、霊苑管理事務所黒田までご連絡いただきますようにお願い致します。

(電話 0742-222-2911 黒田)



## 墓地のご案内

### 新規墓地の申込受付中

ご親類・ご縁者様・お知り合いの方で墓地をお探しの方がおられましたら、是非お勧め、ご紹介ください。区画数に限りはございますが職員がご案内・ご説明させて頂きます。詳しくは、霊苑教務部までお尋ねください。

## 三笠霊苑

## 国際教化教会

〒六三〇-八二〇二  
奈良市川上町六〇一番地  
電話 (0742) 222-2911  
FAX (0742) 222-2911  
http://www.mikasarein.jp